

# 平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立 中正小学校

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
<p>夢をもち かしこく やさしく 元気な子をそだてる</p> <p>◎目指す子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夢や目標をもち、最後まで取り組む子</li> <li>・たがいに認め合い、励まし合う子</li> <li>・進んで学習し、確かな学力を身につける子</li> </ul> <p>◎3つの「つ」を実行できる子 (あいさつ・たいせつ・あとしまつ)</p>	<p>(1)確かな学力の育成を図り、学ぶ喜びを体験させる。</p> <p>(2)自分や他人、ものを大切にし、思いやりをもつことのできる様々な場면을体験させる。</p> <p>(3)夢や目標をもたせ、達成に向け根気強く取り組ませ、達成の喜びを体験させる。</p>

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p><b>【学力状況調査の結果】</b></p> <p>全国</p> <p>○国語では、Aが県平均を上回っているが、Bでは下回っている。その中で、「関心意欲態度」「言語に関する力」ではよい結果が出ているが、「読む能力」が低い。 「早ね早起き」自分の考えを書く:本校75%(全国51%)、「おばあさんの飛行機」人物像の根拠:本校50%(全国64%)</p> <p>○算数では、A・Bともに県平均を上回っている。その中で、領域別では、「数と計算」「数量関係」が高く、Aの「量と測定」が低い。観点別では、「技能」「知識・理解」が高く、Bの「技能」はかなりよい結果が出ている。 「除法の確かめ」「小数の除法の計算」「不等号」「赤テープの割合」は全国平均を上回っている。しかし、「数や計算の表す内容や理由を書くこと」が苦手であり、「1㎡当たりの人数」では全国平均を下回った。</p> <p>県</p> <p>○国語・数学では県平均を上回っている。理科は県平均とほぼ同レベルである。しかし、社会においては、県平均を下回っている。特に活用で低くなっている。 「石の上にも三年」:本校43%(全国61%)、「資料をもとに文章を書く」:本校57%(全国67%)、</p> <p>○算数においては基礎の正答率が高く、領域では「量と測定」「図形」、観点では「知識・理解」の正答率が高い。 算数では、「数と計算」の領域が弱い。 「180°以上の角」:本校50%(全国37%)、「割合を比べ」:本校43%(全国51%)、</p> <p>○理科では、「基礎」「知識・理解」は県平均を上回っているが、「活用」「思考・表現」の正答率がかなり低い。 「実験の条件」:本校29%(県50%)、「小腸」:本校96%(県65%)、</p>	<p><b>【学習状況調査の結果】</b></p> <p>全国</p> <p>○「朝食・早寝・早起き」などの生活習慣では、よい結果が出ている。</p> <p>○テレビの視聴時間が少ない児童や就寝時刻の早い児童が多い。</p> <p>○失敗を恐れずにチャレンジしようとする児童が多い。</p> <p>○自己肯定感が低い児童や周りに認めてもらっていないと思っている児童が少なくない。</p> <p>○将来の夢をほぼ全員が持っている。</p> <p>○よく本を読む児童が多い。</p> <p>○家庭学習の時間は平均的である。復習や自主学習に時間をかけ、計画的に学習を進めている児童が多い。</p> <p>○学校のきまりを守っている児童が多い。</p> <p>○算数の勉強は好きで、大切だと思っている児童が多い。</p> <p>県</p> <p>○家庭での学習習慣が身につけているので、計画的に学習を進める児童が多い。</p> <p>○自己肯定感が高く、全員が将来の夢を持っている。</p> <p>○地域の行事に参加したり、新聞やテレビのニュースに興味をもっている児童が多い。</p> <p>○あいさつについてはほとんどの児童ができている。</p>

成果と課題	課題に対応した改善方法
<p>○キャリア教育を継続して行っていることで、将来の夢を持つことができていると考えられる。</p> <p>○算数の「数と計算」が高いのは、ていねいに指導した後のドリル学習や「どンドンチャレンジ」「放課後学習」などを継続している成果があらわれていると考えられる。「数量関係」では、協同学習に取り組んだことで話し合い活動が増え、考える力がついてきた成果だと考えられる。一方、「量と測定」では、実際に計測するなどの体験的な活動が少なかったことが考えられる。</p> <p>○よい生活習慣(朝食など)や学習規律の指導などを通して、落ち着いた学習環境を作り出している。この結果、まじめに学習に取り組む児童が多く、よい結果を残している。</p> <p>○よい生活習慣が身につけていない児童や正答率が特に低い児童への個別指導をする必要がある。</p> <p>○話し合い活動などを通して交流した意見をまとめる力が弱い。</p>	<p>○キャリア教育を充実させる。夢を実現させるための具体的な方法も意識させながらの指導をする。</p> <p>○平素の学習において、関心・意欲を高め、自ら探究していきなくなるような課題を工夫する。</p> <p>○学校生活のいろいろな場面で、体験的な活動を取り入れる。高学年であっても、抽象的な話し合いだけでなく、具体物を使っての活動をしたり、体や手で操作する体験をしたりする場を多く設定する。</p> <p>○児童支援担当が担任と連携し、授業などでの個別支援をすることで、正答率の低い児童への指導をする。</p> <p>○全校で取り組んでいる「どンドンチャレンジ」でのドリル練習、放課後学習などを継続することで、「数と計算」領域の力をさらにつける。</p> <p>○話し合い活動で交流した意見をもとに、自分の考えをまとめて文章に書く場面を設定するなどの工夫をする。</p> <p>○問題データベースを活用し、学力の向上をはかる。</p>

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)	各校の具体的な達成目標(数値目標等)
<p>○管理職や児童支援担当が授業を参観し、チェック(発表回数、発表内容、学び合い)をする。</p> <p>○児童アンケートを学期ごとに実施し、学習の理解や学習意欲を把握する。</p> <p>○「どンドンチャレンジ」の進み具合を把握する。</p> <p>○宿題の提出を毎日チェックする。</p> <p>○学期ごとの市販テスト(まとめ)により検証する。また、国語と算数については、標準学力検査も実施する。</p>	<p>○ペア学習や班学習で全員が自分の意見を言うことができたり、ノートにまとめたりすることができる。</p> <p>○児童アンケートで、「授業は楽しい」「勉強を頑張っている」が85点以上、「発表をしている」が80点以上になる。</p> <p>○「どンドンチャレンジ」(算数)で、全員が学年末までに該当学年の最終問題を終えることができる。</p> <p>○宿題の提出率を100%にし、継続させる。</p> <p>○テストや標準学力検査において、期待得点または平均点を超える。</p>